

製品名: TSG-6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19360**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	31kDa

抗原情報

遺伝子名	TNFAIP6
別名	TNFAIP6; TSG6; Tumor necrosis factor-inducible gene 6 protein; Hyaluronate-binding protein; TNF-stimulated gene 6 protein; TSG-6; Tumor necrosis factor alpha-induced protein 6; TNF alpha-induced protein 6
遺伝子 ID	7130.0
SwissProt ID	P98066
免疫原	抗血清はヒト TSG6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

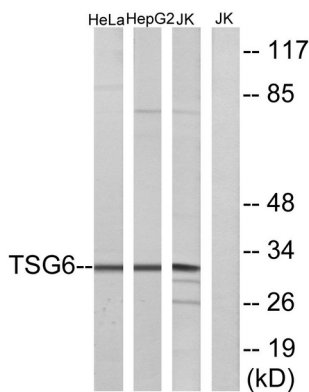
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒアルロン酸結合ドメインを含む分泌タンパク質であり、ヒアルロン酸結合タンパク質ファミリーのメンバーです。ヒアルロン酸結合ドメインは、細胞外マトリックスの安定性と細胞遊走に関与することが知られています。このタンパク質は、インターアルファインヒビター (I α I) と安定な複合体を形成し、炎症に関連するプロテアーゼネットワークにおいて重要なセリンプロテアーゼ阻害活性を増強することが示されています。この遺伝子は、腫瘍壊死因子 α (TNF α) やインターロイキン-1などの炎症性サイトカインによって誘導される可能性があります。このタンパク質は、変形性関節症および関節リウマチ患者の滑液中に高濃度で存在する。[RefSeq 提供、2010年12月],機能: 炎症および腫瘍形成における細胞間および細胞-マトリックス相互作用に関与している可能性がある。誘導: TNFによる。類似性: CUBドメインを1つ含む。類似性: Linkドメインを1つ含む。サブユニット: インター α インヒビター (I- α -I) と相互作用する。複合体の安定性にはコンドロイチン硫酸が必要である可能性がある。組織特異性: 関節リウマチ患者の滑液中に見られる。 ,

研究分野

免疫学、自然免疫、マクロファージ/炎症、シグナル伝達、細胞骨格/ECM、細胞外マトリックス、ECMタンパク質、グルコサミノグリカン、癌、浸潤/微小環境

画像データ



TSG6抗体を用いたJurkat細胞、HeLa細胞、HepG2細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。